

令和4年度子ども読書アンケート分析

【児童生徒編】

○問1 本を読むことが好きですか？

昨年度に比べ、小学校低学年において「どちらかといえば好き」「好き」と回答した割合が4.6ポイント増加しており、全体的に見ても「好き」または「どちらかといえば好き」と回答した割合は多く、小学校では8割以上、中学校でも7割以上と、多くの児童・生徒が読書を好んでいるが、学年が上がるにつれてその割合が下がる傾向が見られる。

○問2 読書を好きになったきっかけは？（※問1で①または②を選んだ人）

全ての学年において「家に本があった」「小さいころ読んでもらった」との答えた割合が多く、家庭に本があることや、小さいころから親に本を読んでもらうなど、本にふれる環境が整っていることが影響している可能性が高い。

○問3 何故読書が嫌いか（※問1で③または④）

全体的に見ると中学年、高学年、中学生においては、昨年同様「他の事がしたい」との回答の割合が多い。低学年においては、「文字を読むのが嫌い」の回答が8ポイント「おもしろくない」の回答が15.6ポイント増加している。引き続き読書に対しての抵抗感や本（絵本）の楽しさをどう知ってもらうかが課題になっている。

○問4 この1カ月で本を何冊よみましたか？

小学生低学年については「0冊」の回答自体が減少しており、「10冊以上」の回答が小学校低学年は6割以上と高く多くの本を読んでいる一方で、中学生においては「0冊」の回答が5.2ポイント増加している。

○問5 どうして本を読まないのですか？（※問4で「0冊」を選んだ人）

昨年同様、全学年「読みたいと思わない」「読むのが嫌い」との回答の割合が多い。昨年度に比べ、小学校中学年では「何を読んだらいいのかわからない」の回答が9.1ポイント増加している。

○問6 家で本を読みますか？

小学校の全学年で「よく読む」「ときどき読む」の回答の割合が多いが、「よく読む」の回答だけを見ると、小学校高学年では2.4ポイント、中学生0.4ポイント減少している。

○問7 家族で本や読書について話をしますか？

全体的に「あまりしない」「まったくしない」の回答の割合が多く、小学校低学年54%、中学年59.6%、高学年71.7%、中学生75%と、学年が上がるにつれて家族と読書についての話をしない割合が増加している。一方で、「よくする」「ときどきする」の回答では、小学校中学年が3.2ポイント、小学校高学年が0.2ポイント、中学生が1.6ポイント増加している。

○問 8 読みたい本はどのように手に入れることが多いですか？

昨年同様、小学生のどの学年でも、「学校で借りる」の回答の割合が、約 50%と高いが、一方、中学生では昨年度同様「本屋さんで買う」の回答の割合が高く 60%ある。読みたい本を手に入れる方法は、年齢が上がるにつれて「学校で借りる」から「本屋さんで買う」割合が高くなっていることがわかる。

○問 9 知りたいことがあるとき、どのように調べますか？

昨年同様、小学校高学年と中学生では「インターネットで調べる」との回答の割合が半数以上となった。小学校低学年、中学年では、「家の人に教えてもらう」の回答の割合は高いが、小学校低学年では「学校の図書館」の回答の割合が最も高く 11.8 ポイント、中学年が 2.9 ポイント増加しており、「地域の図書館」の回答では、小学校低学年が 3.1 ポイント、中学年が 2.3 ポイント増加している。

○問 10 学校の図書館へはどのくらい行きますか？（授業を除く）

小学校の全学年では、「週 1 回」の回答の割合が高い。「行かない」の回答では、小学校中学年 0.5 ポイント、高学年 4.4 ポイント減少している。一方で中学生では「毎日行く」の回答は 1.3%の割合しかなく、「月 1,2 回」の回答が 41.8%と高い割合であるが、「行かない」の回答の割合も高く 32.4%あり、学校の図書館へ行く割合が減少している状況である。

○問 11 地域の図書館等にはどのくらい行きますか？

昨年度と同様で、「行かない」と回答した割合がどの学年も高いが、小学校低学年 6.7 ポイント、中学年 4.8 ポイント、高学年 6.2 ポイント、中学生 4.6 ポイント減少している。また、どの学年でも「月 2, 3 回以上」「2, 3 月に 1 回」の回答が増加しており、地域の図書館へ行く割合が増加していることがわかる。

○問 12 スマートフォンなどのタブレット端末を使って本やマンガ・雑誌を読むことはありますか？

昨年同様、全体的に「読まない」との回答率が高い。一方で小学校全学年の「本を読む」の回答が小学校低学年 4.2 ポイント、中学年 7.3 ポイント、高学年 0.2 ポイント増加していることから、小学生のタブレット端末での読書率が増加していることがわかる。

○問 13 マンガや雑誌をどのくらい読みますか？

どの学年も「よく読む」の回答の割合が多く、小学校低学年では「よく読む」の回答率が 8.3 ポイント増加し、「読まない」は 7.3 ポイント減少している。一方で中学生は「よく読む」の回答率が 3.4 ポイント減少し、「読まない」が 2.6 ポイント増加している。

○問 14 最近、学校の先生に本を読むことをすすめられますか？

「よくすすめられる」の回答で小学校低学年 16.1 ポイント、中学生 0.9 ポイント増加しており、昨年度に比べると小学校低学年では「あまりすすめられない」「まったくすすめられない」の回答の割合が減少傾向にある。

○問 15 最近、家の人に本を読むことをすすめられますか？

昨年度同様、全体的に見ると、「まったくすすめられない」の回答の割合が高く、小学校高学年は約 46%、中学生が約 50%と半数を占めている。一方で、小学生低学年が「よくすすめられる」の回答が 6.4 ポイント増加している。

○問 16 最近、友達に本を読むことをすすめられますか？

昨年同様どの小学生から中学生の全学年においても、「まったくすすめられない」「あまりすすめられない」と回答した割合が半数以上と高いが、「よくすすめられる」「ときどきすすめられる」の回答が小学校低学年では 13.8 ポイント、中学年 3.2 ポイント、高学年は 2 ポイント増加している。

○問 17 本を読むことを友達や家の人にすすめることがありますか？

小学校低学年で「よくすすめる」の回答が 11.7 ポイント増加しており、「まったくすすめられない」の回答では、小学校低学年が 11.5 ポイント、中学年が 2.9 ポイント減少している。

(総括)

○昨年度と同様に全体の約 70%以上の子どもが読書を好ましく思っている。子ども達の生活の中に本と触れる環境をつくることによって、読書に興味を持ち読書を始めるきっかけになると考えられる。

○その一方、読書に好意的ではない子どもは学年が上がるにつれて増加傾向にあり、子どもたちのやりたいことの中で読書の優先度が低いと思われる。

○学年が上がるにつれて本を読む冊数が減っていることがわかる。特に、中学生は小学生とは違い部活動や塾などが多くなり、生活環境が変わるため、読書の時間が減る時間の理由の一つと考えられる。

○知りたいことがあるときに、高学年や中学生は本ではなく便利なインターネットを活用していることがわかるが、小学校低学年、中学年では学校の図書館や地域の図書館を利用している児童も増えており、調べるツールとして即時性の高いインターネットの利点に対して本ではどのようなことができるのかということも、今後も重要になってくると考えられる。

○一方で、電子書籍を利用している児童生徒の割合は、小学校低学年や中学年でも増加しており、電子図書館の開館が子どもたちの読書環境にどう影響してくるかは、今後見ていくことになる。